

# (1) 宮崎県感染症発生動向調査概況 —2024 年/令和 6 年—

宮崎県衛生環境研究所

## 【目 次】

|     |                      |    |
|-----|----------------------|----|
| 1   | 全数把握対象疾患             |    |
| (1) | 2024 年に報告された疾患とその報告数 | 2  |
| (2) | 主な全数把握対象疾患の概要        | 3  |
|     | (ア) 結核               |    |
|     | (イ) 腸管出血性大腸菌感染症      |    |
|     | (ウ) 重症熱性血小板減少症候群     |    |
|     | (エ) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症   |    |
|     | (オ) 梅毒               |    |
|     | (カ) 百日咳              |    |
|     | (キ) その他の全数把握対象疾患     |    |
| 2   | 定点把握対象疾患             | 6  |
| (1) | インフルエンザ              |    |
| (2) | 新型コロナウイルス感染症         |    |
| (3) | 小児科対象疾患              |    |
|     | (ア) 前年との比較           |    |
|     | (イ) 例年との比較           |    |
|     | (ウ) 全国との比較           |    |
|     | (エ) 注目すべき疾患          |    |
|     | a) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎     |    |
|     | b) 手足口病              |    |
| (4) | 眼科及び基幹定点対象疾患         | 10 |
|     | (ア) 眼科定点対象疾患         |    |
|     | (イ) 基幹定点対象疾患         |    |
|     | a) マイコプラズマ肺炎         |    |
| (5) | 月報告定点把握対象疾患          | 11 |
|     | (ア) 性感染症             |    |
|     | (イ) 薬剤耐性菌感染症         |    |

## 1 全数把握対象疾患

(1) 2024年に報告された疾患とその報告数を表1に示す。

表1 2024年に報告された全数把握対象疾患の推移－2020～2024－

| 分類    | 疾病名                 | 2024年※ | 2023年  | 2022年  | 2021年  | 2020年  |
|-------|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2類感染症 | 結核                  | 106    | 105    | 123    | 130    | 152    |
|       |                     | 15,843 | 15,377 | 14,798 | 16,299 | 17,786 |
| 3類感染症 | 腸管出血性大腸菌感染症         | 45     | 27     | 66     | 29     | 23     |
|       |                     | 3,742  | 3,826  | 3,370  | 3,243  | 3,094  |
| 4類感染症 | E型肝炎                | 4      | 1      | 2      | 5      | 3      |
|       |                     | 526    | 552    | 435    | 460    | 454    |
|       | A型肝炎                | 1      | －      | －      | －      | 7      |
|       |                     | 137    | 56     | 69     | 71     | 120    |
|       | 重症熱性血小板減少症候群        | 8      | 12     | 10     | 13     | 5      |
|       |                     | 120    | 134    | 118    | 110    | 78     |
|       | つつが虫病               | 34     | 33     | 41     | 72     | 57     |
|       |                     | 349    | 445    | 492    | 544    | 538    |
|       | 日本紅斑熱               | 16     | 14     | 12     | 19     | 13     |
|       |                     | 505    | 500    | 457    | 490    | 422    |
|       | レジオネラ症              | 16     | 9      | 5      | 13     | 9      |
|       |                     | 2,419  | 2,291  | 2,143  | 2,133  | 2,059  |
|       | レプトスピラ症             | 1      | 2      | 3      | －      | 1      |
|       |                     | 53     | 49     | 38     | 34     | 17     |
| 5類感染症 | アメーバ赤痢              | 5      | 4      | 2      | 3      | 8      |
|       |                     | 514    | 489    | 533    | 537    | 611    |
|       | ウイルス性肝炎             | 3      | 7      | 6      | 4      | 6      |
|       |                     | 226    | 244    | 211    | 203    | 246    |
|       | カルバペネム耐性<br>腸内細菌感染症 | 4      | 3      | 9      | 5      | 3      |
|       |                     | 2,277  | 2,113  | 2,015  | 2,066  | 1,956  |
|       | 急性脳炎                | 1      | 4      | 3      | －      | 4      |
|       |                     | 609    | 661    | 399    | 338    | 491    |
|       | クロイツフェルト・ヤコブ病       | 4      | 4      | 1      | 1      | 3      |
|       |                     | 169    | 170    | 172    | 179    | 157    |
|       | 劇症型溶血性<br>レンサ球菌感染症  | 21     | 6      | 3      | 5      | 6      |
|       |                     | 1,888  | 939    | 708    | 622    | 718    |
|       | 後天性免疫不全症候群          | 3      | 5      | 4      | 5      | 5      |
|       |                     | 991    | 948    | 893    | 1,053  | 1,094  |
|       | 侵襲性インフルエンザ菌<br>感染症  | 4      | 3      | 2      | 4      | 2      |
|       |                     | 644    | 566    | 211    | 194    | 253    |
|       | 侵襲性肺炎球菌感染症          | 16     | 15     | 10     | 7      | 10     |
|       |                     | 2,530  | 1,987  | 1,347  | 1,405  | 1,655  |
|       | 水痘(入院例)             | 5      | 4      | 4      | 4      | 9      |
|       |                     | 483    | 405    | 327    | 301    | 362    |
|       | 梅毒                  | 161    | 166    | 116    | 89     | 40     |
|       |                     | 14,663 | 15,055 | 13,221 | 7,978  | 5,867  |
|       | 播種性クリプトコックス症        | 6      | 5      | 6      | 4      | 2      |
|       |                     | 189    | 173    | 159    | 163    | 152    |
|       | 破傷風                 | 2      | 2      | 5      | 7      | 5      |
|       |                     | 85     | 109    | 96     | 93     | 104    |
|       | 百日咳                 | 59     | 5      | 15     | 2      | 37     |
|       |                     | 4,054  | 1,000  | 491    | 707    | 2,819  |

上段: 県内の報告数

下段: 全国の報告数

※ 2024年の全国報告数については速報値

## (2) 主な全数把握対象疾患の概要

## (ア) 結核

報告総数は 106 例で、保健所別報告数を図 1-1、1-2 に示す。患者が 68 例、疑似症患者が 1 例、無症状病原体保有者が 37 例で、患者は肺結核が 41 例、肺結核及びその他の結核が 4 例、その他の結核（結核性胸膜炎、結核性リンパ節炎など）が 23 例であった（図 1-3）。男性が 56 例、女性が 50 例で、年齢群別報告数の割合を図 1-4 に示す。60 歳以上が全体の約 7 割、20 歳代が全体の約 2 割を占めた。

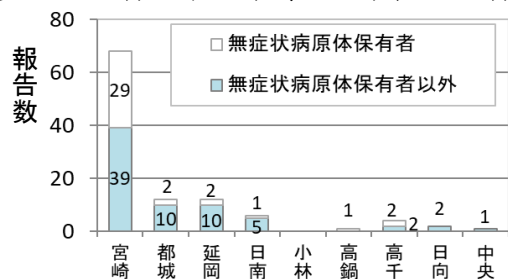


図 1-1 保健所別報告数  
(2024 年結核)

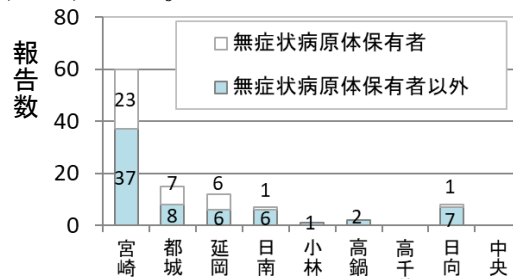


図 1-2 保健所別報告数  
(2023 年結核)

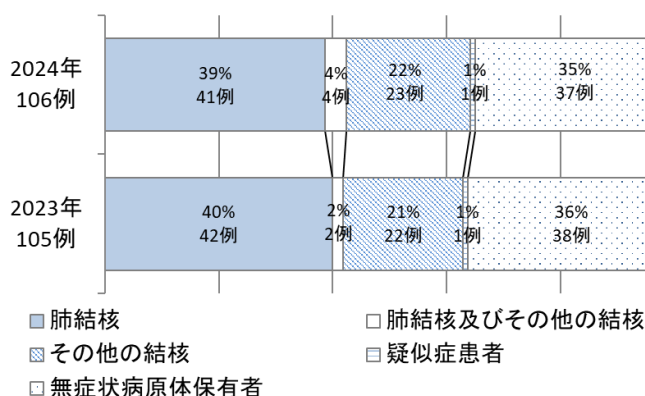


図 1-3 病型別報告数の割合 (結核)

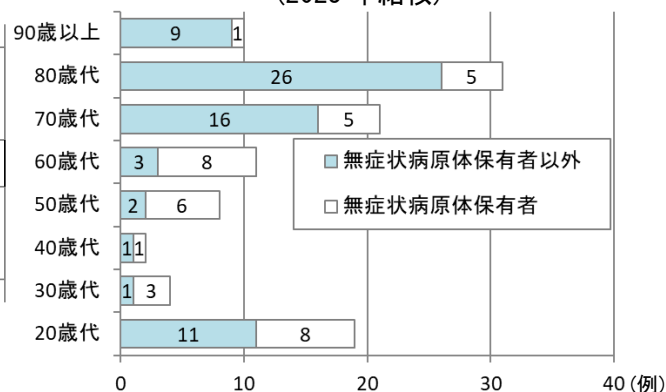


図 1-4 年齢群別報告数 (結核)

## (イ) 腸管出血性大腸菌感染症

報告総数は 45 例で、保健所別報告数を図 2-1、月別報告数を図 2-2 に示す。患者発生時期は 5 月が 15 例と全体の約 3 割を占めた。患者が 27 例（うち HUS 発症 1 例(O157)）、無症状病原体保有者が 18 例（図 2-3）で、O 血清型別報告数を表 2 に示す。年齢群別では 0～4 歳が全体の約 3 割を占めている（図 2-4）。

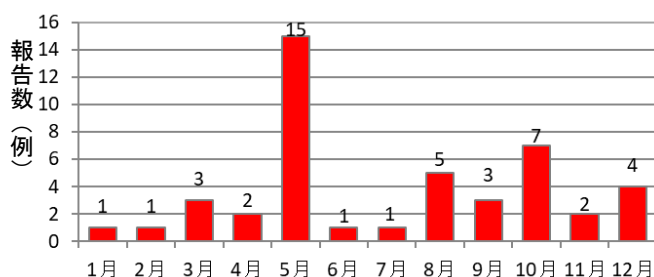


図 2-2 月別報告数  
(腸管出血性大腸菌感染症)

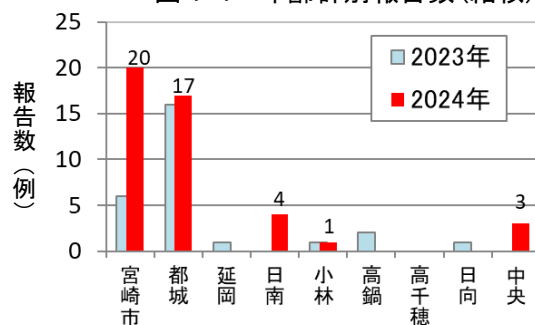


図 2-1 保健所別報告数  
(腸管出血性大腸菌感染症)

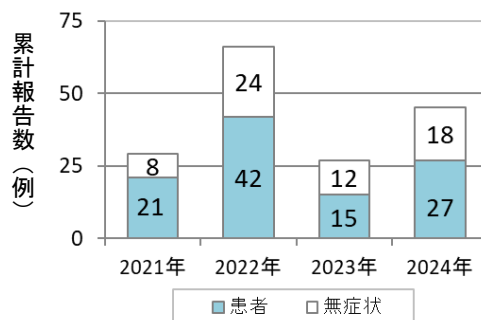


図 2-3 病型別報告数の推移  
(2021 年～2024 年)

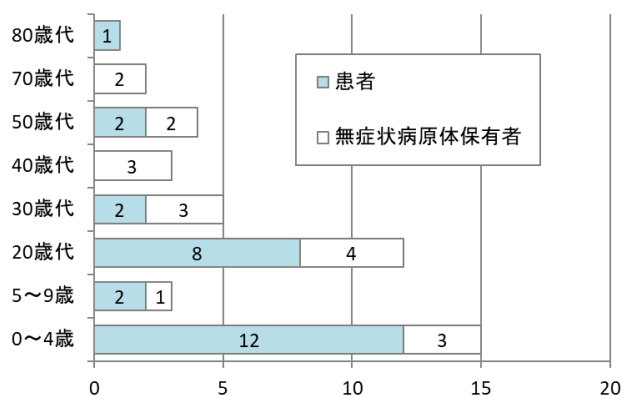


図 2-4 年齢群別報告数  
(腸管出血性大腸菌感染症)

(ウ) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)  
報告総数は 8 例で、宮崎市 (4 例)、延岡、  
(2 例)、都城、日南 (各 1 例) 保健所管内か  
ら報告された。届出が開始された 2013 年 3  
月からの患者の月別発症者数を図 3、年齢群  
別報告数を表 3 に示す。

表 3 年齢群別報告数 (SFTS) (n=117)

| 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳代 | 90歳代 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 1    | 1    | 2    | 5    | 26   | 44   | 31   | 7    |

表 2 O血清型別報告数  
(腸管出血性大腸菌感染症)

| O血清型 | 2024年 | 2023年 |
|------|-------|-------|
| O26  | 15    | 3     |
| O157 | 9     | 4     |
| O111 | 7     | 10    |
| O115 | 3     | 2     |
| O8   | 1     |       |
| O91  | 1     |       |
| O112 | 1     |       |
| O168 | 1     |       |
| O146 |       | 2     |
| O20  |       | 1     |
| 不明   | 7     | 5     |

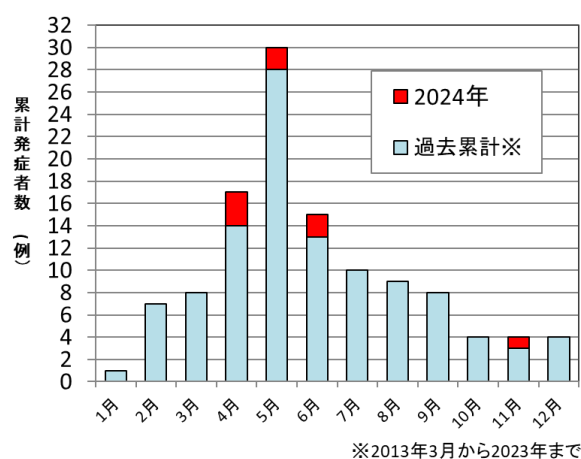


図 3 月別発症者数 (SFTS)  
(2013 年 3 月～2024 年 12 月 n=117)

(エ) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症  
報告総数は 21 例で、宮崎市 (14 例)、都城、  
延岡 (各 3 例)、日南 (1 例) 保健所管内から報  
告された。過去 10 年の診断週による年別累計  
報告数を図 4 に示す。

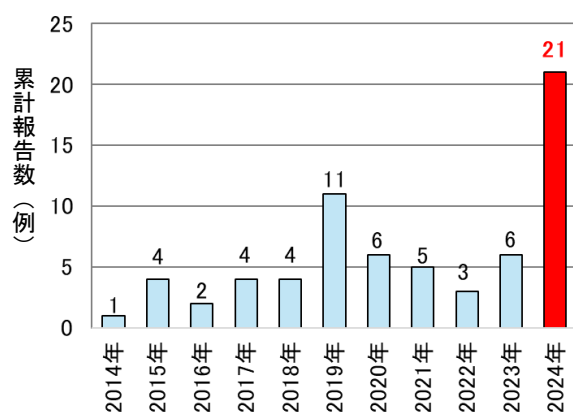


図 4 年別累計報告数  
(劇症型溶血性レンサ球菌感染症)

## (オ) 梅毒

報告総数は161例で、宮崎市（94例）、都城（38例）、延岡（9例）、小林、高鍋、日向（5例）、日南（3例）、中央（2例）保健所管内から報告された。男性が75例、女性が86例で、年齢群別報告数を図5-1、類型別報告数の推移を図5-2に示す。患者のうち、先天梅毒1例、早期顕症梅毒（Ⅰ期）が71例、早期顕症梅毒（Ⅱ期）が44例、晩期顕症梅毒が4例、無症状病原体保有者が41例であった。感染経路は、母子感染1例、異性間性的接触116例、同性間性的接触2例、性的接触（異性間同性間不明）19例、不明23例であった。

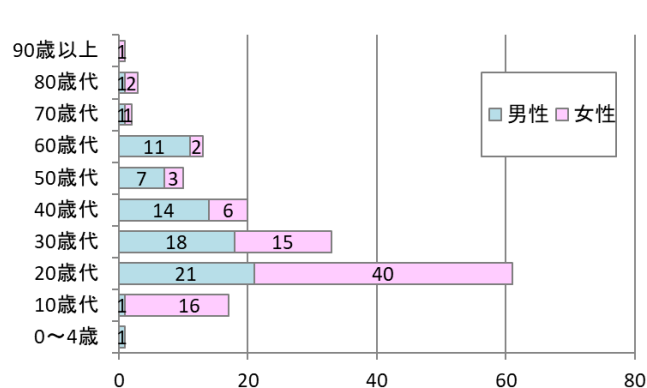


図5-1 年齢群別報告数（梅毒）

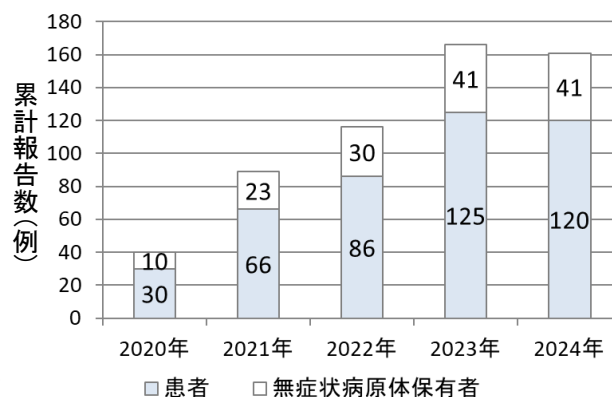


図5-2 類型別報告数の推移（梅毒）

## (カ) 百日咳

報告総数は59例で、保健所別報告数を図6-1、年齢群別報告数を図6-2に示す。年齢群別では15歳未満が約7割を占めている。百日咳のワクチン接種歴は有（38例）、無（2例）、不明（19例）であった。

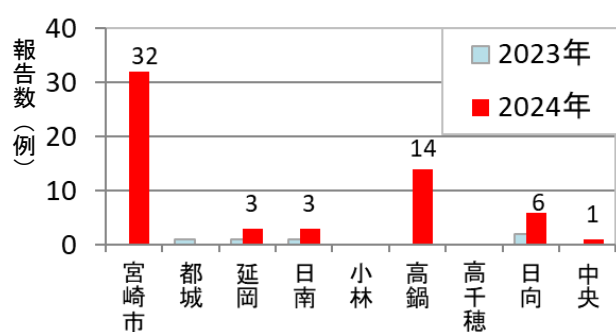


図6-1 保健所別報告数（百日咳）

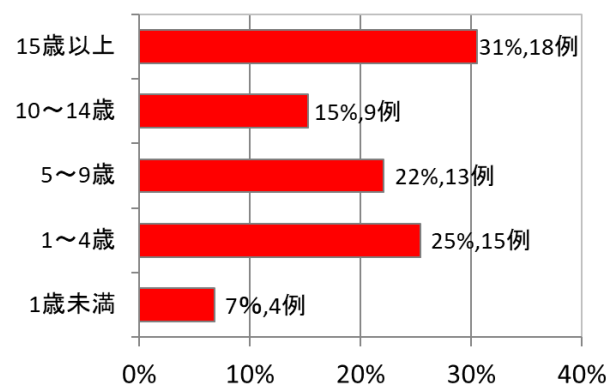


図6-2 年齢群別報告数の割合（百日咳）

## (キ) その他の全数把握対象疾患

・A型肝炎（1例）：都城保健所管内から報告があり、40歳代男性であった。遺伝子型は不明であった。

・レジオネラ症（16例）：宮崎市（9例）、都城、日南（各2例）、延岡、高鍋、日向（各1例）、保健所管内から報告された。すべて男性で、年齢は30歳代が1例、50歳代が2例、60歳代が4例、70歳代が7例、80歳代が2例であった。また、病型別では、肺炎型が15例、ポンティアック熱型1例であった。

## 2 定点把握対象疾患

### (1) インフルエンザ

2024 年のインフルエンザの報告数を、前年（2023 年）、新型コロナウイルス感染症流行前の過去 5 年間（2015 年～2019 年）の平均（以下「例年」という）及び全国と比較した。報告総数は 27,953 人（定点あたり 482.0）で、前年(685.7)の 0.7 倍、例年の 1.1 倍、全国の約 1.2 倍であった。

なお、インフルエンザシーズンにおける発生状況を図 7-1,図 7-2 に示す。2024/25 シーズン（今シーズン）は、2024 年 50 週（12 月 9 日～12 月 15 日）に定点あたり報告数が 16.5 となり流行注意報を超え、次いで 2024 年 51 週（12 月 16 日～12 月 22 日）に定点あたり報告数が 50.6 となり警報値を超えた。

図 7-1 インフルエンザ発生状況(2019-2025)

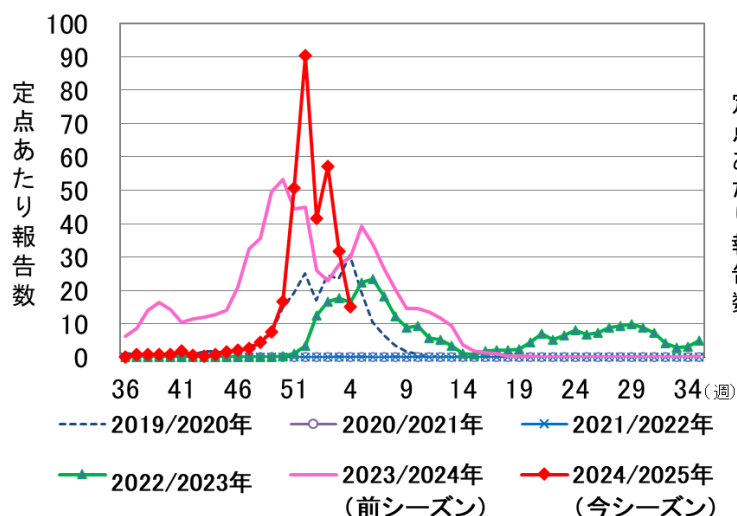
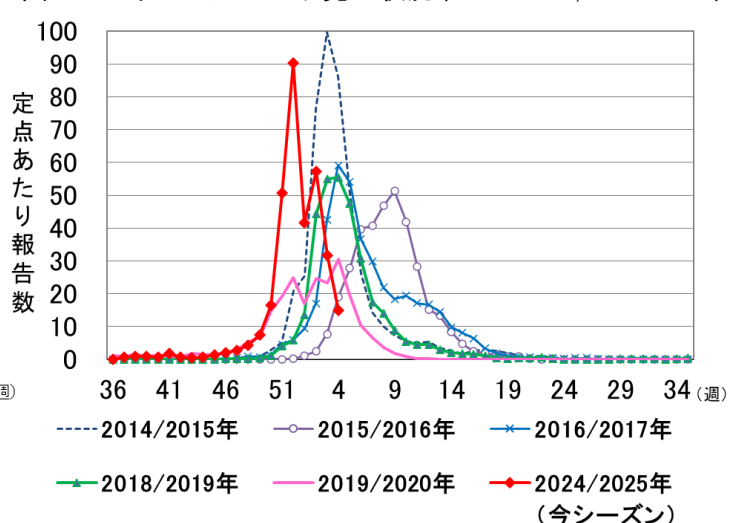


図 7-2 インフルエンザ発生状況(2014-2020, 2024-2025)



### (2) 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症の報告総数は 21,851 人（定点あたり 376.7）で、全国の約 1.2 倍であった。発生状況を図 8-1、保健所別報告数を図 8-2 に示す。

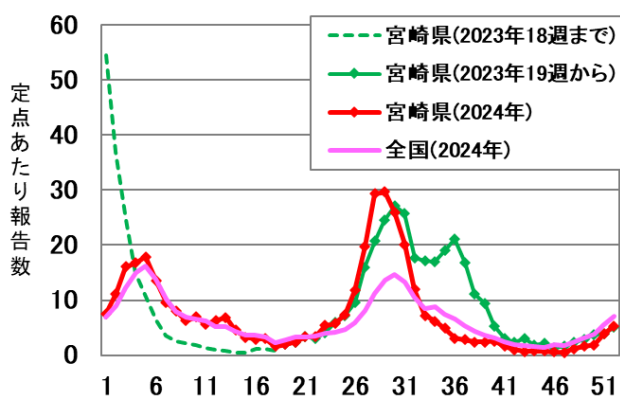


図 8-1 新型コロナウイルス感染症発生状況

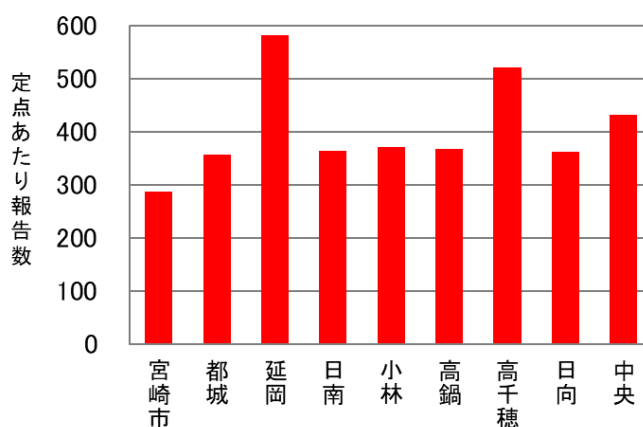


図 8-2 保健所別報告数

（新型コロナウイルス感染症）

## (3) 小児科対象疾患

2024 年の小児科対象疾患の報告総数は 34,994 人（定点あたり 972.1）で、前年の 118%、例年の 95%、全国の 137%であった。

## (ア) 前年との比較 (図 9-1)

増加した主な疾患は伝染性紅斑（11.4 倍）、手足口病（2.5 倍）、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（2.2 倍）、で、減少した主な疾患はヘルパンギーナ（0.6 倍）であった。

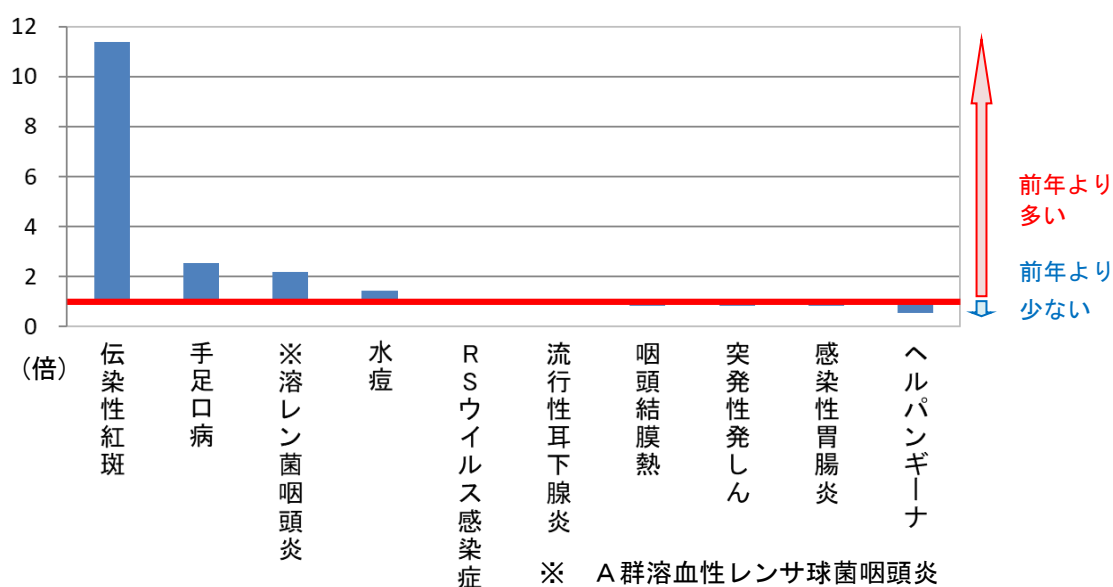


図 9-1 2024 年 前年との比較（小児科定点対象疾患）

## (イ) 例年との比較 (図 9-2)

多かった主な疾患はA 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（2.1 倍）、手足口病（1.6 倍）で、少なかった主な疾患は流行性耳下腺炎（約 0.1 倍）、水痘（約 0.3 倍）、伝染性紅斑（約 0.3 倍）であった。

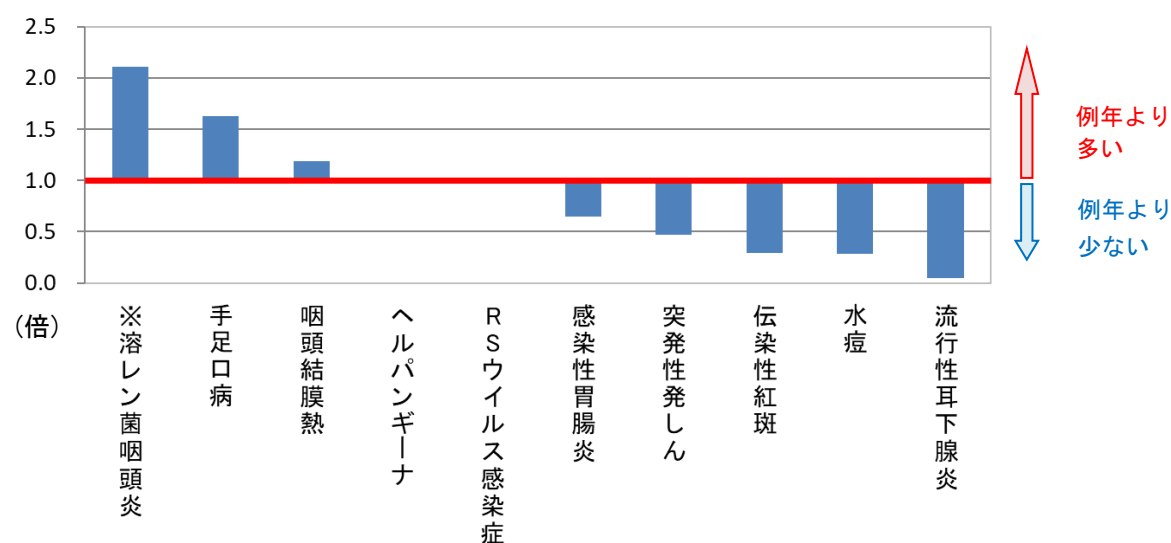


図 9-2 2024 年 例年との比較（小児科対象疾患）

## (ウ) 全国との比較 (図 9-3)

多かった主な疾患はヘルパンギーナ (約 2.2 倍)、RS ウイルス感染症 (約 1.7 倍) で、少なかった疾患は伝染性紅斑 (約 0.7 倍)、水痘 (約 0.8 倍) であった。

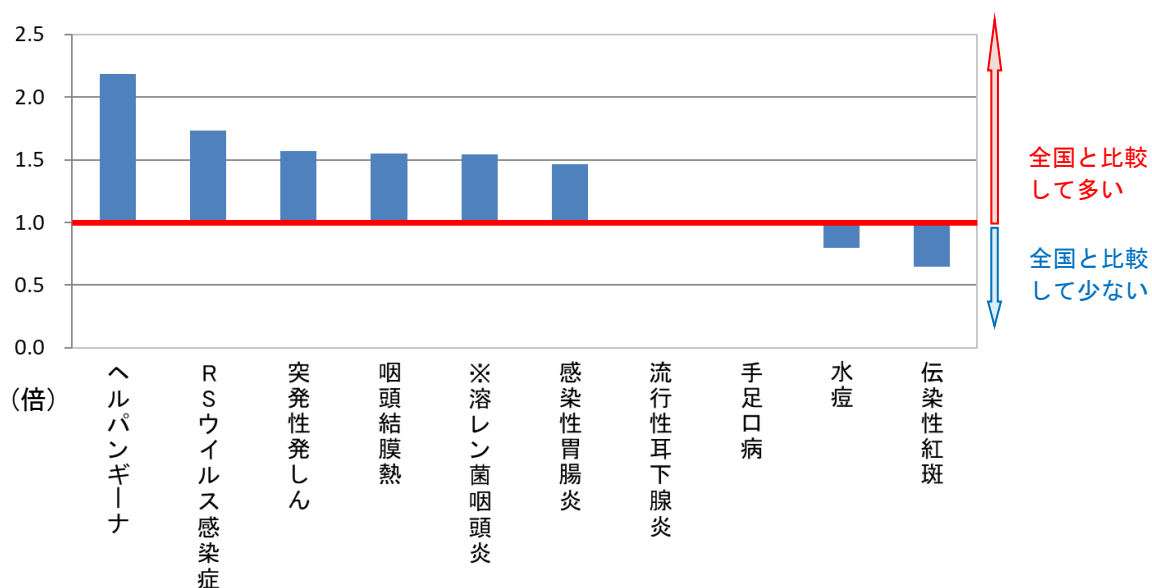


図 9-3 2024 年 全国との比較 (小児科対象疾患)

## (エ) 注目すべき疾患

## a) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (図 10-1～4)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告総数は 8,803 人 (定点あたり 244.5) で、前年の約 2.2 倍、例年の約 2.1 倍、全国の約 1.5 倍であった。発生状況を図 10-1、過去 5 年の定点あたり累積報告数推移を図 10-2、保健所別報告数を図 10-3 に、年齢群別報告数の割合を図 10-4 に示す。

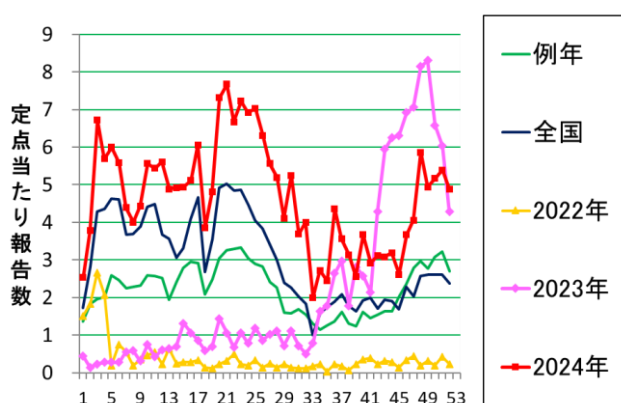


図 10-1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況

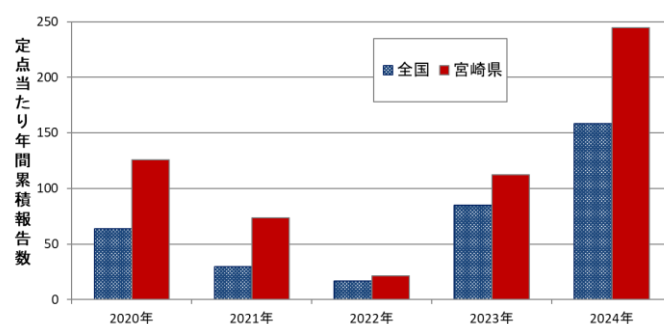


図 10-2 年間累積報告数推移 (A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

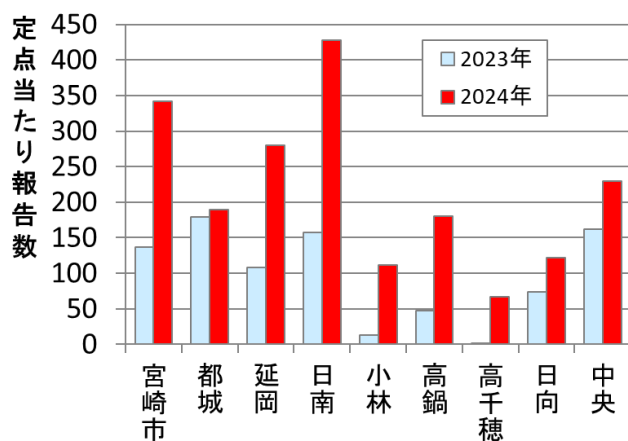


図 10-3 保健所別報告数  
(A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

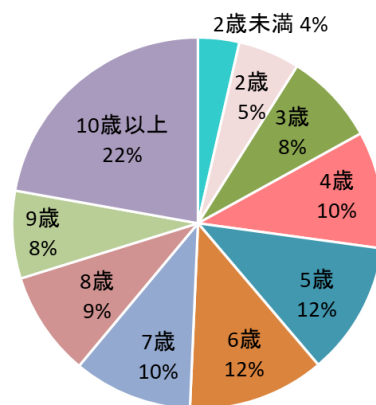


図 10-4 年齢群別報告数の割合  
(A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

b) 手足口病 (図 11-1～4)

手足口病の報告総数は 7,689 人 (定点あたり 213.6) で、前年の約 2.5 倍、例年の約 1.6 倍、全国と同程度であった。発生状況を図 11-1、過去 5 年の定点あたり累積報告数推移を図 11-2、保健所別報告数を図 11-3 に、年齢群別報告数の割合を図 11-4 に示す。

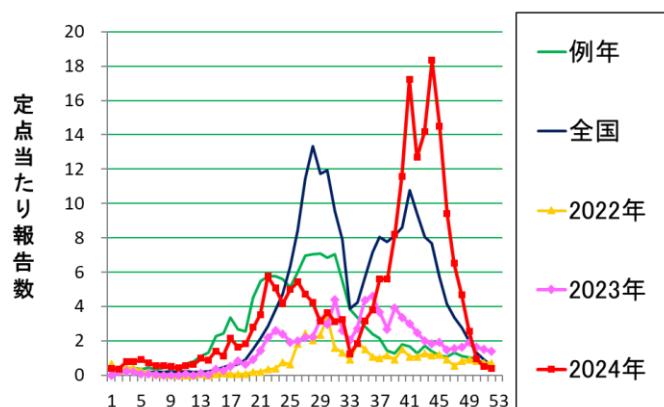


図 11-1 手足口病 発生状況

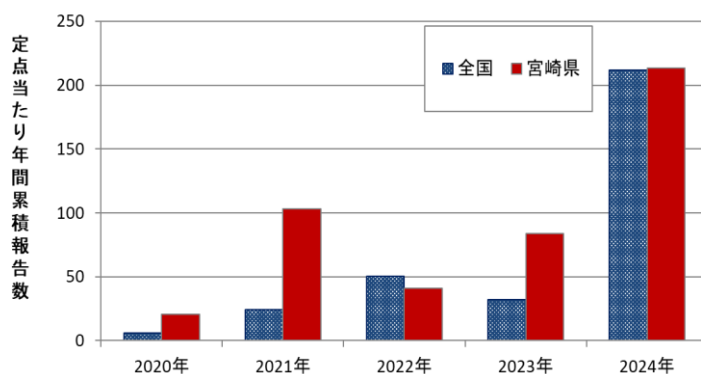


図 11-2 年間累積報告数推移  
(手足口病)

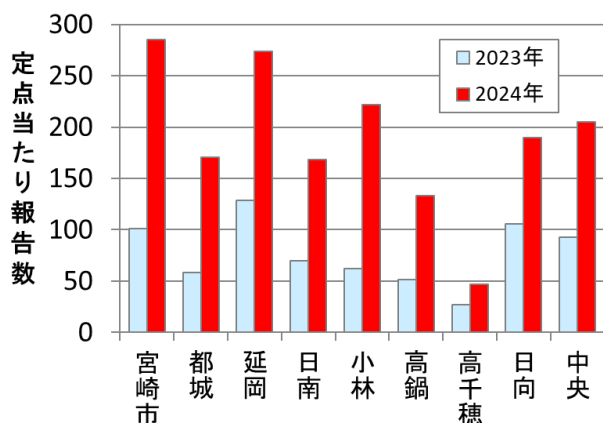


図 11-3 保健所別報告数  
(手足口病)

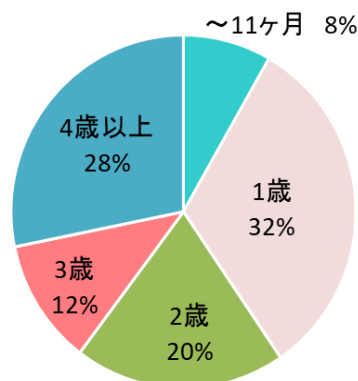


図 11-4 年齢群別報告数の割合  
(手足口病)

## (4) 眼科及び基幹定点対象疾患

2024 年の眼科及び基幹定点対象疾患の報告数を、前年、例年及び全国と比較した（図 12）。

## (ア) 眼科定点対象疾患

報告総数は 242 人（定点あたり 40.3）で、前年の 70%、例年の 30%、全国の 133%であった。

## (イ) 基幹定点対象疾患

報告総数は 220 人（定点あたり 31.4）で、前年の 5500%、例年の 127%、全国の 63%であった。

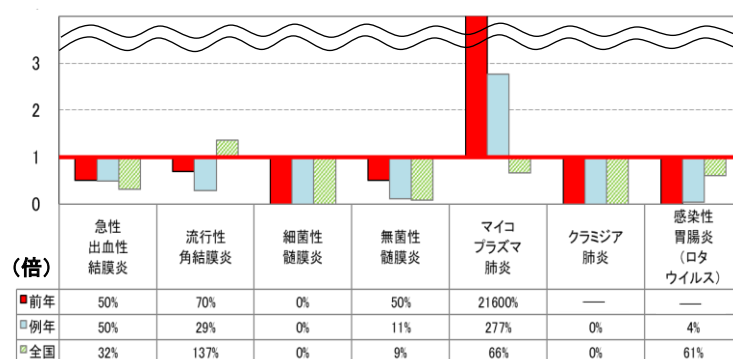


図 12 2024 年 前年、例年及び全国との比較  
（眼科及び基幹定点把握対象疾患）

## a) マイコプラズマ肺炎

報告数は 216 人（定点あたり 30.9）で、前年の 216 倍、例年の約 2.8 倍、全国の 0.7 倍であった。過去 5 年の定点あたり累積報告数の推移を図 13-1、年齢群別報告数の割合を図 13-2 に示す。

図 13-1 定点あたり累積報告数の推移  
（マイコプラズマ肺炎・宮崎県 2020～2024 年）

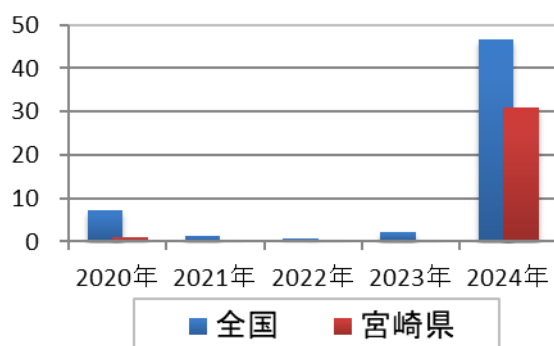
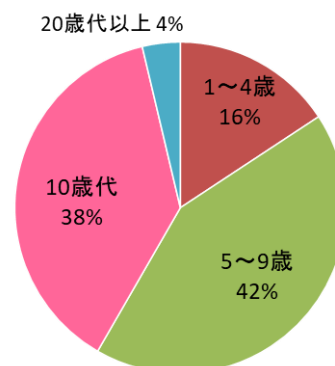


図 13-2 年齢群別報告数の割合  
（マイコプラズマ肺炎）



## (5) 月報告定点把握対象疾患

性感染症と薬剤耐性菌感染症の報告数を前年、例年及び全国と比較した(図 14)。

## (ア) 性感染症

報告総数は 496 人(定点あたり 38.2)で、前年の 104%、例年の 127%、全国の 68%であった。

疾患ごとの性別報告数を図 15-1、年齢群別報告数の割合を図 15-2 に示す。

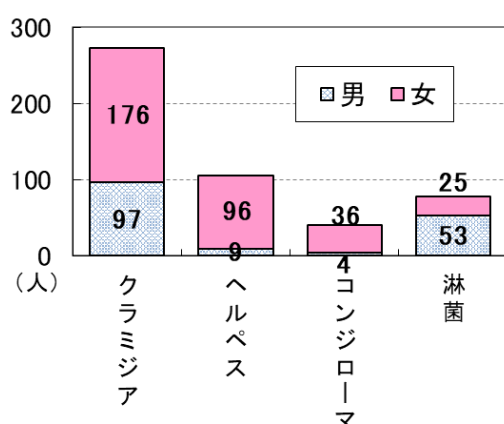


図 15-1 疾患別性別報告数  
(性感染症)

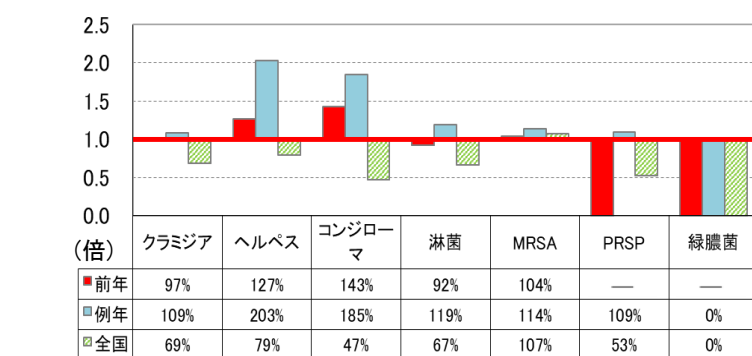


図 14 2024 年 前年、例年及び全国との比較  
(性感染症及び薬剤耐性菌感染症)

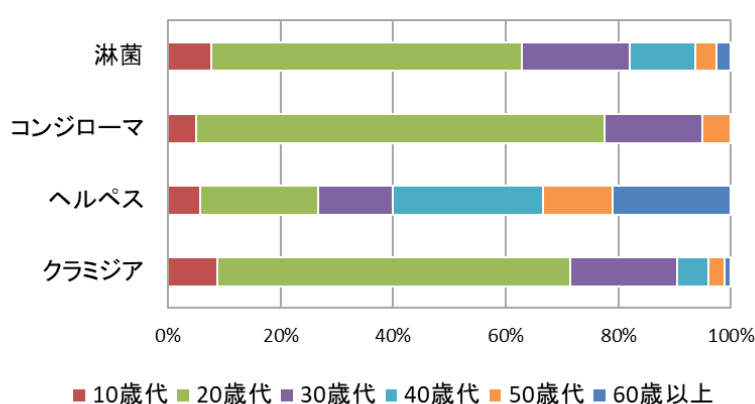


図 15-2 年齢群別報告数の割合  
(性感染症)

## (イ) 薬剤耐性菌感染症

報告総数は 252 人(定点あたり 36.0)で、前年の 107%、例年の 114%、全国の 104%であった。年齢別では、MRSA は 70 歳以上が全体の約 7 割を占めた。PRSP は、0~4 歳が 1 例、60 歳代が 1 例、70 歳以上が 5 例、薬剤耐性緑膿菌感染症は報告がなかった。